

同窓生の動向



先日 K3 回生のペンネーム千田佳代（本名・星野よしこ）さんから『森澄雄の背中』という御著書がおくられてきました。今年 86 歳で執筆した本です。千田さんは 7 年前に、79 歳で出版した『猫ヲ祭ル』という小説で、小島信夫文学賞を受賞しました。その後も精力的に書き続け、今回の著書となりました。今年の春に脳出血があったにもかかわらず、右手 1 本でパソコン打ちをし、完成させたそうです。まだまだ書く意欲は衰えていません。終戦直前の 15 歳時に函館空襲があり、自宅前で米軍機銃掃射を受けて足に大変なケガをするという辛い経験をのりこえてきた千田さんですが、本当に「凄い！」の一言です。



8 月 29 日に K14 回生でイラストレーターの味戸ケイコさんが遺愛にいらして、アリーナで生徒達に講演して下さいました。味戸さんは 1965 年に多摩美術大学デザイン科を卒業し、1971 年『月刊エレクトーン』創刊号から表紙イラストを担当し、「アンパンマン」のやなせたかしさんに見出され、1973 年から『詩とメルヘン』（サンリオ）の表紙画も担当しました。歌手中島みゆきさんとのコラボで『時代』を絵本にしました。高校 3 年生の時に自分の夢を実現するために、ご両親を一生懸命説得するくだりは、生徒の皆さんにも大変参考になったようです。



K16 回生の綾部弘子さんから御手紙をいただきました。綾部さんは、息子さんのネパールでの死をきっかけに、長くネパールの学校づくりに関わってきましたが、昨年 4 月・5 月のネパール大地震の惨状から寄付を呼びかけました。遺愛の後輩達も生徒会中心にささやかですが寄付をしましたが、それがどのように今、用いられているか、またネパールの現状がどうなのかの丁寧な報告でした。早速、中学・高校の両生徒会に御手紙を渡し、全校生徒にお知らせしました。



寄付でプレゼントした毛布

K27 回生の大崎誠子さんが、8 月 25 日に北海道議会議員そして文教委員長として、他の文教委員の道議の方々と共に遺愛を訪問しました。ずいぶん前に、大崎さんがまだ民放のアナウンサーをしていた頃、生徒会企画の講演でいらして以来の訪問ではないかと思えます。会議室で現在の遺愛の様子を説明し、10 年前にできた大きな遺愛アリーナを見学、高 3 生の授業を見た後ささやかな交流をしました。講堂では、水田先生のオルガンと白須先生のソプラノを聴き、ホワイトハウスを見学して遺愛を後にしました。今の遺愛の様子に大変感心され、少しでもお役にたてればとお話ししていました。また、他の議員さん達は、ぜひ親族や知り合いを遺愛に勧めたいとおっしゃっていました。とても有り難いことです。

この 3 月で 2 万 4,444 名の卒業生を送り出している遺愛ですが、全国各地で、また世界各地で「地の塩、世の光」として素晴らしい働きをしています。

2016 年 9 月 15 日（木）